

発掘ニュース

平成16年度3月

4月10日更新

萱町遺跡

神戸八丁目

調査は終了しました。予想以上にさまざまな時期の遺構が密に重なり合っていました。

注目されるのはまず古墳の周溝と思われる溝です。円筒埴輪のほか馬形埴輪や須恵器も出土しました。須恵器は6世紀前半のものが主です。しかし、出土した円筒埴輪には薄手で須恵質のものと厚手で軟質で黒斑のある二種類のものがあります。時期の違う2基の古墳が近接するのか、同一古墳に2系統の埴輪が立てられたのか興味は尽きません。

また、遺構としてのまとまりは確認できませんでしたが、奈良時代の土器がまとまって出土していることも注目されます。

その他、調査区内各所で検出された柱穴や溝は出土遺物から主に鎌倉時代ころのものと見られます。



調査区全景

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成16年度2月

伊勢国分寺跡(30次)

国分町

3月5日に現地説明会を開催しました。寒い中にもかかわらず46名の方に参加していただきました。現地説明会の資料はこちら(PDFファイル 1,612KB)からどうぞ。現地は埋め戻しに入ります。



現地説明会

萱町遺跡

神戸八丁目

萱町遺跡は過去に防火用水を掘った際に彩文の施された弥生土器が出土したことで知られる遺跡です。このたび宅地造成に先立ち試掘調査を行ったところ一部で遺構・遺物が見つかったため発掘調査が行われることになりました。予想に反して、弥生時代の遺物よりも古墳時代から中世にかけての遺物を伴った遺構が確認されています。とくに、緩やかにカーブする溝から円筒埴輪や馬形埴輪の足そして鉄斧などが出土しました。6世紀初め頃の古墳があったようです。



調査風景



円筒埴輪の出土

平田遺跡

平田本町一丁目

引き続き個人住宅建築に伴う発掘調査が続いています。1次調査で四面庇建物が発見されたちょうど東の区画です。今回の調査で、この建物の規模が梁行き3間×桁行き6間の身舎(もや)に四面の庇が付く、県内でも最大級の掘立柱建物であることが判明しました。郡衙の政庁正殿や豪族の居宅としても大きすぎるくらいで、これは一体何の遺跡なのか首をひねっています。

その他には古代の土坑と中世の溝が見つかっています。



調査風景



掘立柱建物

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成16年度10月

天王遺跡（13次）

岸岡町

10月31日の現地説明会を開催して、予定されていたすべての調査が完了しました。現地説明会には約60名の方が参加されました（現地説明会の資料はこちら(PDFファイル 926KB)）。

最後に調査を行なった13次D区からは、L字型に配置された奈良時代中ごろの掘立柱建物群が検出されました。蹄脚礎の出土などから見て国府や郡家に伴う津(港)の役所の施設である可能性が高いようです。



掘立柱建物



現地説明会

伊勢国府跡（19次）

広瀬町

新たに金藪の南部にあたる2箇所に調査区を設けました。すでに調査を終えた調査区から地割の北限とされる東西溝が検出されましたが、それによって想定される方形区画の内側にあたります。調査の結果、掘立柱建物や礎石建瓦葺建物は検出されず、奈良時代の竪穴住居1棟が検出されたにとどまりました。竪穴住居の東壁にはカマドが設けられていました。南東隅では貯蔵穴とみられる土坑が検出されました。カマドの内部から土師器甕が、カマドの袖付近から丸瓦2個が、土坑から土師器坏・甕と平瓦が出土しました。これをもって今年度の調査は終了しました。



竪穴住居検出作業



竪穴住居

伊勢国分寺跡（30次）

国分町

秋雨によるたび重なる冠水で調査が進まずに困っています。新たに、東門推定地と北辺築地推定地の2調査区を設定しました。

東門推定地では、東辺築地の基底部が検出されましたが、門の存在を示すような基底部の広がりや、側溝の途切れは確認されていません。

北辺築地推定地では予想通り、28・29次調査で確認された伽藍地内部を東西に区画する築地が北辺築地とT字状に交わっていることが確認できました。



台地の上なのに常に水没(泣)



東辺築地基底部

甲懸II遺跡

稲生町

国道23号線中勢バイパス工事に先立つ発掘調査です。昨年度実施した試掘調査では埴輪片が出土し、埴輪窯か古墳の発見が期待されています。現在表土剥ぎと遺構検出を進めているところです。



調査風景

平田遺跡（2次）

平田本町一丁目

先に宅地開発に伴い道路部分の本調査を行ないましたが。分譲が始まり、住宅建設に伴う発掘調査が4件ほど入ってきました。それぞれの調査区から、古墳時代前期の竪穴住居、飛鳥～奈良時代の掘立柱建物そして中世の溝などが検出されています。



竪穴住居



掘立柱建物

国府城跡

国府町

個人住宅建築に伴う調査です。室町時代の遺物を伴う溝2条が検出されました。国府城に関連する遺構の一部と思われます。奈良・平安時代遺物はほとんど出土していません。



溝（堀）



調査区全景

白鳥塚1号墳

石薬師町

県指定史跡の直径が70mを超える大円墳です。古墳の東側隣接地で開発の予定が入ったため、試掘調査を行ないました。その結果、周溝と思われる溝が現在の墳丘裾ではなく、かなり東に離れて検出されました。そのため、白鳥塚古墳は東側に張り出し部を持つ帆立貝式古墳である可能性が出てきました。



試掘トレンチ

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成16年度 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

9/05更新

天王遺跡（13次）

岸岡町

C区の弥生時代後期・古墳時代後期の環濠の掘り下げが続いています。岸岡山の窯跡で焼かれたと思われるとてもユニークな須恵器が続々と出土しています。また、身分の高い人物が使用したと見られる蹄脚硯も出土しました。伊勢国府跡や国分寺跡でもまだ発見されていないのに、やはりこの遺跡ただの集落ではありませんね。



大溝の掘削



蹄脚硯の出土

伊勢国府跡（19次）

広瀬町丸内

官衙ブロックの推定北辺にあたる部分に調査区を設けました。遺構検出を始めたところですが、東西に伸びる幅約1mの溝を検出しました。区画の基準線となる溝と見られます。しかし溝は1条のみで土塁や築地のような施設は築かれていなかったようです。



東西溝検出作業

伊勢国分寺跡

国分町

南東院(区画)の調査を進めています。南辺この院専用の門があるかどうか一つの鍵となります。築地基底と築地内溝は確認され、内溝の幅が変化する部分も見つかりましたが、もう少し決め手がほしいところです。続けて南東院の中央部を広く開けて調査します。



南辺築地の基底と内溝



南東院中央部調査区調査風景

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成16年度 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

8/05更新

天王遺跡（13次）

岸岡町

C区からは再び弥生時代後期・古墳時代後期の環濠が姿を表してきました。例によって大量の須恵器が出土し始めています。



V字状に掘られた環濠。



須恵器の大甕が出土

平田遺跡・平田城跡

平田本町一丁目

調査は無事終了しました。7月18日午前中に現地説明会を開催して、約30名の参加がありました。現地説明会の資料はこちら(PDFファイル1.2MB)からご覧いただけます。

閲覧にはAdobe社のAcrobat Readerが必要です。



なんと縄文晩期の石刀も出土しました。



現地説明会

伊勢国分寺跡

国分町

第30次調査が始まりました。調査区設定のための杭打ちが終了し、一部重機で表土を除去し始めています。まずは南東院（区画）の構造を詳しく調べる予定です。



博物館展望デッキから見た調査区

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成16年度 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

7/05更新

天王遺跡（13次）

岸岡町

C区の調査が本格的に始まっています。この調査区は、遺構の残りがよく、竪穴住居が何棟も重なり合っていて切り合い関係がわかりにくいと調査員を嘆かせています。もちろん、大形の掘立柱建物も姿を表し始めています。



土層観察用の畔を残しながら慎重に掘り下げます。



土器片がびっしり

平田遺跡・平田城跡

平田本町一丁目

底構造を持つ大形の掘立柱建物が検出されました。やはりこの遺跡も一般集落ではなく豪族の居宅か役所的な性格を持つものであるようです。7月18日午前中に現地説明会を開催する予定です。



周囲に土塁を巡らせる中世の館



底を持つ大形掘立柱建物

宮上道遺跡

小田町

調査は終了しました。6月19日（土）に地元を対象とした現地説明会を開催し約30名の方の参加がありました。現地説明会の資料はこちら(PDFファイル 4.2MB)からご覧いただけます。

閲覧にはAdobe社のAcrobat Readerが必要です。





現地説明会

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成16年度 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

6/05更新

平野遺跡（第2次）

平野町

調査は終了しました。主な検出遺構は弥生時代注記の方形周溝墓が1基と古代の掘立柱建物が1棟です。周溝から出土した4個体の土器は見事に復元できました。5月23日(日)に現地開放を行ったところ、雨模様の天気にもかかわらず約80名の方に参加していただきました。現地開放の資料はこちら(PDFファイル 801KB)からご覧いただけます。

閲覧にはAdobe社のAcrobat Readerが必要です。



調査区全景



掘立柱建物



出土した弥生土器



現地開放

天王遺跡（13次）

岸岡町

13次調査予定地のうち第一期分にあたるA区と、B区の調査が終了し航空写真測量を行いました。掘立柱建物4棟・柱穴（古墳～奈良）・溝・竪穴住居3棟が確認されました。掘立柱建物4棟のうち2棟はきちんと柱筋が通っています。

調査は、すでに第二期分の調査区の表土除去作業へと移っていて、まだまだ続きます。



A調査区全景(掘立柱建物1)



B調査区全景

平田遺跡・平田城跡

平田本町一丁目

こちら調査は順調に進んでいます。これまでに古代の竪穴住居5棟、掘立柱建物8棟、中世の掘立柱建物3棟、溝、土塁を検出しています。中世の建物は一辺が約50mほどの方形に巡る溝に囲まれた中に集中するようです。

調査は7月中旬までを予定しています。



古代の掘立柱建物



目前には鈴鹿川の谷底平野が広がります。

宮上道遺跡

小田町

調査もいよいよ終盤に差し掛かりました。竪穴住居1棟がみつきりカマド部分が良く残っていました。カマドは白鳳時代の瓦を袖に用いており、内部には甕の破片と支脚代わりの石が残っていました。その他の遺構としては中世以降の大小多数の土坑、ピット、溝などです。五輪塔の一部も出土しました。

6月19日(土)に現地説明会を開催の予定です。



竪穴住居のカマド



五輪塔(火輪)も出ました

[TOPに戻る](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成16年度 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

5/05更新

平野遺跡（第2次）

平野町

集合住宅建設に先立つ発掘調査です。弥生時代のお墓である方形周溝墓が1基検出されています。周溝の一つからは墓に供えられたとみられる壺形土器がほぼ完形で出土しました。外には古代の掘立柱建物の柱穴なども見つかっています。

5月23日(日)午後1時から4時に現地開放を行います。



検出された方形周溝墓



弥生土器の出土状況



出土状況



作業風景

天王遺跡（13次）

岸岡町

病院の改築とともに進められてきた天王遺跡の発掘調査もいよいよ最終年次となります。今回は二重の環濠（堀）に囲まれた中心部分を広く掘るので成果が期待されます。表土除去作業と遺構検出が平行してが進められているところですが、すでに竪穴住居が確認され掘立柱建物の柱穴が並び始めています。



.....

平田遺跡・平田城跡

平田本町一丁目

宅地造成に伴う発掘調査です。表土除去作業と遺構検出が並行して進められています。みつかるとは遺構は大きく2つの時期にわかれます。古いほうでは奈良時代頃の掘立柱建物、竪穴住居などです。遺物では白鳳時代のものとみられる格子叩き目のある瓦が多く出ていて、寺院遺跡との関連が期待されています。新しい時代の遺構としては平田城跡に伴うと見られる堀や溝があります。ロクロで作られた土師器の皿などが出土しています。遺跡地図に御門垣内古墳とある古墳状の高まりはどうやら城跡の土塁かやぐらの跡とみられます。



検出された掘立柱建物



竪穴住居

.....

宮上道遺跡

小田町

市道建設に伴う発掘調査です。東のJR関西本線側から掘り進めていますが、中世のたくさんの土坑（穴）・溝が重なり合っています。遺構からは土師器の鍋、皿のほか山茶碗・常滑焼・古瀬戸などの陶器がたくさん出土しています。山茶碗の底には花押のような墨書があるものも見られます。古瀬戸や常滑の壺甕はよく蔵骨器（骨壺）に用いられるので付近に中世の墓地があった可能性もあります。



たくさんの土坑



古瀬戸壺

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成16年度 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

4/05更新

新年度の発掘調査が始まります

平成16年度は4月早々から発掘調査がめじろ押しです。昨年度末から表土除去作業を進めていた小田町宮上道遺跡のほか、宅地造成に伴う平田本町一丁目平田遺跡・平田城跡、病院改築に伴う岸岡町天王遺跡（第13次）、集合住宅建設に伴う平野町平野遺跡（第2次）の4現場が同時にスタートします。

平野遺跡（第1次）

平野町

終了しました。中世の掘立柱建物に伴う柱穴のほか土坑・溝に伴い、山茶碗・山皿・青磁・常滑焼の破片などが出土しました。中世の集落の一部と見られます。また、土師器・須恵器など古墳時代から奈良・平安時代にかけての土器も出土しています。



調査区全景

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)